

フートン 胡同

～失われていくかつての大都会の風情～

北京事務所

胡同是北京の原風景

日本語に無理に訳すとすれば、長屋、横丁。まさにそんな趣を漂わせる北京の街並みが胡同（フートン）です。

レンガ造りの平屋建て、そんな集合住宅が立ち並び、街区を形成し、大都会北京の街並みを形づくってきました。

一つ一つの通りに名前がある胡同。金魚胡同、黒胡麻胡同といった親しみやすいものから、浄土胡同、養老胡同など少し説教くさいものまで様々です。胡同の数だけ名前があり、胡同の数だけ生活圏があるといえます。

一步、胡同に足を踏み入れると、そこには八百屋、肉屋、雑貨屋に五金と呼ばれる金物屋兼修理屋といった各種の商店に加え、小吃（シャオ・チー）と呼ばれる簡易食堂、床屋に洗濯屋などもあり、一通りの生活はできるようになっています。お酒とタバコは免許制らしく、これらを扱うお店も多く見受けられます。



通りの両側に商店が立ち並ぶ胡同



「エイ！俺の必殺技を受けてみろ！」

子供達が仲良く遊ぶ姿や、大人たちがのんびりと将棋やトランプに興じたり、長話に耽ったりする様子は、懐かしい昔の日本の光景を彷彿させてくれます。

背伸びばかりが能じゃないのに

既に5年前にオリンピックが開催されていることから、皆さんも容易にご想像がつくと思いますが、残念ながらいま急速にこの街並みは失われつつあり、この街は世界を代表する大都市へと変貌を遂げようとしています。

平屋建てを取り壊して高層化していく、一言で言えばそんなまちづくりがあちこちで進められています。街を歩いていると高層ビルが胡同からニョキニョキと生えてきたようにも見えることがあります。

そんな光景を目の当たりにすると、私には、北京という街が、上海、いえ東京やニューヨークという背の高い街に肩を並べようと、上へ上へと背伸びをしているように見えて仕方がないのです。

胡同にご興味の湧いた方は、なるべく早目に北京をお訪ねになることをお奨めします。



ある胡同の中から隣接する高層マンション群を望む



(平澤次長 兵庫県派遣)